

平成21年度 自己評価及び学校関係者評価結果書

学校法人くるみ学園 くるみ幼稚園

1 くるみ幼稚園の教育目標

明るい子・・・だれとでも楽しく遊べる子
 がんばる子・・・じょうぶで、ねばり強い子
 かんがえる子・・・自分から創りだしていく子

2 本年度の重点目標

20年度で掛川市幼保再編計画(8園構想=6幼保園・2幼稚園への再編)が一応落ち着いたことで、市内幼児教育施設の分布図が大きく変化した。当園もこの計画に大きく影響されることで、前年度に比べて教職員の数が大幅に減ってしまったが、少ない人数でも既存の保育レベルを下げない工夫をしていく。

3 教職員による、評価項目に対する自己評価

評価項目	教職員自己評価	自己評価結果
1 保育の計画性	年間計画・月案・週案・日案に沿って綿密な計画を立てて保育を実践することが出来た。前年度を参考にして保育活動の開始時期を調節することで、行事に対する取り組み等で余裕が出来た。	A
2 保育の在り方、 幼児への対応	子どもたちの内発的動機づけによる保育の内容を重視して活動を進め、それらはほぼ達成出来た。加えて、個々の能力よりも少々難しいものに挑戦させて達成感を味わわせることをも狙った。日々のねらいを達成できたかを毎日反省して翌日以降に生かせるように工夫。クラス担任が一人でクラス全員を見るのではなく、全保育者で子ども一人ひとりを見つめ、良い所を認め伸ばせるように、子どもの日々の小さな現れや変化も保育者同士で連絡し合った。	A
3 教師としての資質、 能力・良識・適正	子どもに接する上では、保育者自身の人間性が非常に重要であるという認識の元、常日頃から新聞を読んだり、芸術に触れたりという経験を豊かにすることを意識し、それらは実践できた。年若い保育者をベテランが監督し、アドバイスを与えて能力を引き出す体制が構築されている。	A
4 保護者への対応	子どもたちの園での様子や家庭内でのことは、連絡帳を使用して連絡を密に取るように心掛けた。文章では無くても声で直接連絡が必要な事項は、保育終了後に電話連絡をしたり直接会話をしたりした。保護者と保育者との信頼関係は非常に良好である為、園に対する苦情等はほとんど無かった。	A
5 地域の自然や社会 とのかわり	園が比較的町中に位置しているので、自然との関わりに乏しくなってしまうがちではある。それでも、公園まで歩いて園外保育に出かけたり、時には園バスを使って遠くの緑豊かな公園まで赴き、虫取り・木の実拾いなどの自然の中で遊ぶ計画を立てて実行した。 ご近所のお年寄りとの関わりの中で、彼らが作っている布ぞうりを年長児が半年間保育中に履いて使用した。	B

6 研修と研究	<p>年度当初に、個々に研究テーマを決めて一年間資料を集めてその成果を保育者全員で話し合った。</p> <p>また、成長に問題のある子については、学期ごとに様子を発表・話し合いを行って情報を共有し、保育者全員で問題意識を持って関わりを深めていけるようにした。</p>	A
---------	---	---

※自己評価結果の表示方法
A…十分達成された
B…達成された
C…取り組んだが達成が十分ではない
D…取り組みが不十分であった

4 次年度以降に取り組む課題

<p>基本的には当年度を踏襲しながら保育を行う。</p> <p>特に、グレーゾーンの子どもへの対応・対処をどのようにするのかの事例研究を深めていく。</p>
--

5 教職員自己評価に対する学校関係者評価

評価者：くすみ幼稚園学校関係者評価委員会		
評価日：平成 22 年 3 月 8 日		
評価項目	教職員自己評価	評価結果
1 保育の計画性	一人ひとりの教員が、園の教育方針を良く理解し、年・月・日のカリキュラムをしっかりと立てて保育を行っている。全教員出席の会議や反省会を密に行うことで、計画内容がより密度の濃いものとなっている。	A
2 保育の在り方、 幼児への対応	保育における「ねらい」を明確にしているためか、教員間の連携が非常によく取れている。子どもたちへの対応も、全教員が全園児の状態をほぼ把握している様子が伺え、大変素晴らしい。	A
3 教師としての資質、 能力・良識・適正	常に物事を吸収して保育に生かしていこうという姿勢が教員たちの随所に見られて好ましい。また、ベテランと若手のバランスがうまく取れており、新人が育つ環境が整っていると思われる。	A
4 保護者への対応	保護者と連絡を密に取ることで、子どもの状態を把握していこうとする姿勢が随所に見られた。それらが信頼となって、強い絆を築いている。	A
5 地域の自然や社会 とのかかわり	周囲に自然が少ないという環境のためか、自然に触れる機会が少なくなってしまうのは残念である。自然との関わりをもう少し工夫して欲しい。	B
6 研修と研究	テーマを決めて研究を深め、自身の保育のスキルを上げようとする環境が整っている。教員同士で切磋琢磨する姿勢が良い意味で出ている。	A

※自己評価結果の表示方法
A…十分に達成されていた
B…まずまず達成されていた
C…取り組みは見られるが達成が十分ではない
D…取り組みが不十分であった